第４学年２組　算数科学び合い学習指導案

１　単元名　角とその大きさ（啓林館　４年）

２　児童の実態

本学級の児童は、算数の学習に最後まであきらめずに取り組み、自分の考えを導き出そうとする児童が多い。しかし、自分の考えを伝わるように表現したり、他者の考えに寄り添ったり比べたりすることを苦手とする児童も少なくない。いろいろな考え方を交流する場面において「聴く・つなぐ・もどす」の教師の働きかけにより、自分の思いや考えを伝えたり、他者の考えを受け入れ、考えの違いから共通点や相違点に気づいたりすることができるようにしたい。

３　単元の目標

○　分度器の使い方や角の大きさの単位について理解し、角の大きさを測定したり、加減計算をしたりすることができる。（知識及び技能）

○　角の大きさに着目して図形を考察したり、180°や360°を基準として角の大きさの測り方やかき方を考えたりしている。（思考力、判断力、表現力等）

○　角の大きさの測定や作図に進んで関わり、角の大きさにあわせて分度器を工夫して使うことや角の大きさも加減計算できることのよさに気づき、学習にいかそうとしている。（学びに向かう力、人間性等）

４　学習指導計画（全８時間）

第一次　扇を使った角づくりから、回転角の定義を確認する。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・①

第二次　角の大きさの測り方⑤

第１時　角の大きさの単位について知り、分度器を使って角の大きさの測定をする。・・・・・・①

第２時　辺の長さが短い場合や角の向きが反対の場合に工夫して測定する。・・・・・・・・・・①

第３時　正三角形や二等辺三角形の等角に着目して角の大きさを測定する。・・・・・・・・・・①

第４時　三角定規の角の大きさや角の大きさの加減の仕方について調べる。・・・・・・・・・・①

第５時　180°をこえる角の大きさを測定する。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・**【本時】**①

第三次　分度器を使った角のかき方や三角形のかき方②

５　本時

（１）日時　令和８年６月１２日（金）５校時　　於　第４学年２組教室

（２）主眼　180°より大きい角の測り方を交流する活動を通して、半回転や１回転の角の大きさについて理解し、180°や360°をもとに加減を使って測ったり、求め方を説明したりすることができるようにする。

（３）本時で学び合う姿が現れるための主な手立て

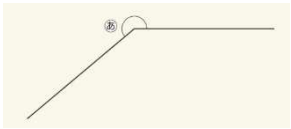
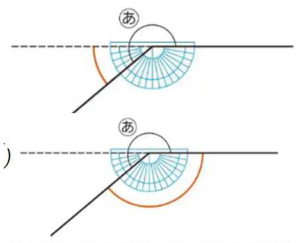
【着眼１】課題設定の工夫

児童の課題意識を高めるために、既習学習を想起させる。初出である180°をこえる角の大きさは分度器では測れないと考える児童が出てくると予想されるが、工夫すれば測ることができると気づく児童も出てくると考える。友達の考えと比べることで、考える必要性をもって取り組める課題になると予想する。

【着眼２】学び合いが充実するための教師の働きかけ

課題解決の場面において、グループや全体で交流する活動を設定する。その際、自他の考えを見比べながら図や式の意味を説明する活動を通して、180°や360°をもとに求めることができるように、「聴く・つなぐ・もどす」の教師の働きかけを児童の思考や反応を見ながら行っていく。

（４）展開

段階	児童の学習活動と主な対話	教師の支援（○）、評価（※）
課題把握	1　前時までの学習を想起し、本時のめあてを確認する。 （１）　前時までの学習を想起し、問題を提示する。 〈問題〉 角の大きさは 何度ですか。  （２）　本時のめあてを確認する。	○　分度器を使って、角の大きさを測ることができたことを想起させながら、180°をこえる角の課題を提示する。**【着眼１】** ○　求める角の大きさが180°をこえる角であることをおさえるために、全体で求める角を確かめたり、分度器を使ったりして課題を確認する。
／	めあて　180°をこえる角の大きさのはかり方を考えよう。	
課題解決	2　180°をこえる角の大きさの測り方について、グループや全体で交流する。 （児童の思考の予測） ・140° ・220°　（90°＋130°） ・220°　（180°＋40°） ・220°　（360°－140°）  **なぜ、この線を引いたのですか。** ・半回転は180°だから、残りの角の大きさを測ればわかるからです。 **「180°＋40°」の式はどんな意味かな。** **「360°－140°」の式はどんな意味かな。** ・180°に40°をあわせればよいから、 180°＋40°＝220°です。 ・360°から140°へらせばよいから、 360°－140°＝220°です。	○　180°をこえる角の大きさを考えることができるように、オクリンクプラスを使って180°のところに補助線を引かせたり立式させたりする。 ○　全体交流で児童の考えを取り上げるために、机間指導を行い、どの児童がどのやり方で考えているのか把握する。 ○　支援が必要な児童には、半回転の角の大きさが180°であったことを確かめさせたり、他の友だちやグループの考えを確認させたりして、教材や友だちとつなげる。 ○　180°よりどれだけ大きいかを考えさせるために、180°のところに補助線を引いた児童の考えを取り上げる。**【着眼２】** ○　180°に何度つけ足しているかを考えさせるために、児童の考えから「180°＋40°」の式を取り上げる。**【着眼２】** ○　360°から何度戻るかを考えさせるために児童の考えから「360°－140°」の式を取り上げる。**【着眼２】** **※　グループや全体交流活動を通して180°や360°の角の大きさをもとに測り方を考えたり説明したりすることができる。** **【言語能力・コミュニケーションスキル】** **※　相手に伝わるように理由を挙げながら話の中心が明確になるよう話の構成を考えること（国語科 Aイ）** **※　互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること（国語科 Aオ）**
	3　本時のまとめをする。 まとめ　　180°や360°をもとに考えると、180°より大きい角でも分度器を使ってはかることができる。	
／ふりかえり	4　練習問題をする。 〈問題〉角の大きさは何度ですか。  5　学習の振り返りをする。	○　練習問題では180°や360°をもとに測ることができることをおさえるために、２つの方法での求め方を確認する。 ○　学習で分かったことや考えたことをノートに書く活動を設定し、自分の考えを見直す。